

tete

特集 「Lively life」



つなでちゃん Information!

本部の活動・学科同窓会の活動やイベントなども紹介しているよ!

LINE公式アカウントはじめました! 友達登録をお願いします。

\ NEW /



公式
HP



X(旧Twitter)



Facebook



同窓会からのお知らせを届けるために、 会員情報の登録をお願いします!



同窓会役員や各学科の先生方より同窓生の皆さんへ会員情報登録のお声がけをさせていただいております。同窓会誌の送付やメールマガジンの配信等を通して、同窓会の活動や大学の情報を提供しています。卒業後も有益な情報をお届けしておりますので、ぜひ会員情報の登録・更新をお願いいたします。



※提供いただいた情報は、個人情報取扱基準に基づき適正に取り扱います。上記の目的以外での使用や、会員を除く第三者に提供することはありません。

表紙のヒト

「学バスの運転手さん」

今年の『表紙のヒト』は学バスの運転手さんです。開学以来豊栄駅や名目所・太夫浜地区からの通学に学バスは欠かせないものでした。マイクロバスから始まった学バスですが、今では大型のラッピングバスも加わり、変わらず学生たちの生活を支えています。新入生の少し緊張した気持ち、寝不足気味な時、実習前の複雑な気持ちや友人たちが待つキャンパスを楽しみに向かう気持ちも、すべて乗せて大学まで安全に運んでくれる皆さんには感謝しかありません。新潟医療福祉大学同窓会は今年で20周年を迎えました。今後は在学生支援もさらに強化し大学と卒業生のつながりを大切に活動してまいります。在学生や卒業生の活躍や思いを受け取り、teteを通して同窓生へ運べるよう努めてまいります。引き続き同窓会活動にご理解・ご協力いただければ幸いです。

左より/相沢さん 野崎さん 大森さん



| お問い合わせ先 |

新潟医療福祉大学同窓会

新潟県新潟市北区島見町1398番地 新潟医療福祉大学事務局内 同窓会支援室

Tel 025-257-4455 Mail dosokai@nuhw.ac.jp



新潟医療福祉大学同窓会

設立20周年
記念パーティー

2024年11月16日

新潟東映ホテル

祝
20
周年



役員

voice!

『10年後もまた来るよー!』と
言っていました…。

できれば毎年おこなっている連携研修会やほかのイベントにもぜひお越しください!きっと企画の良さを分かってもらえると思います。新しいつながりも得られるかと思ひます。10年後また今回よりも多くの方が同じ気持ちになってもらえるよう、新潟医療福祉同窓会一同、頑張っています!

会の終盤、『本当、あつという間だね』『今度は学科でも集まろうよ』と名残惜しうにお話する方の姿も見られました。1期生が卒業して20年…。それぞれの立場で忙しく過る方々にお集まりいただき、盛大に祝うことができ大変うれしく感じています。ご参加いただきありがとうございます。

スタジオジャパン旅行券など豪華景品がかった大抽選会は皆さん大注目でした。ガッツポーズで当選を喜ぶ姿や、はにかみ笑顔で景品を受け取る方、高額景品を逃して悔しがりながらも他の景品の当選を喜ぶ方も。大盛況の大抽選会でした!!

記念パーティーは同窓生だけではなくご家族連れで参加して下さった方々も多く、とても賑やかな時間となりました。『久しぶりだね』『全然変わらなね』『また再会を喜ぶ声や、先生方と近況を報告する様子など皆さんのほじける笑顔がとても印象的なパーティーでした。学科や学年の垣根を越えたサークルのつながりや卒業後の職場でのつながりも多く、新潟医療福祉大学同窓会が大切にすることのつながりが垣間見られるひと時でした。

また、パーティーでは在学生によるダンスパフォーマンスや大抽選会も催されました! 一番の盛り上がりを見せたのは大抽選会!! 東京ディズニーリゾート旅行券、ユニバーサル

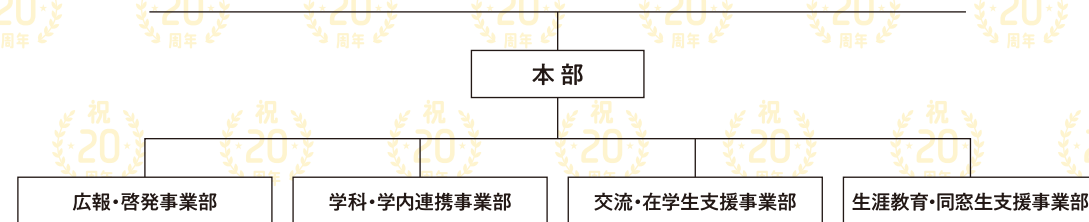
2024年11月16日(土)新潟東映ホテルにて新潟医療福祉大学同窓会設立20周年記念パーティーを開催しました。当日は、第12回連携研修会も開催され、100名以上の方々に集まりいただき盛大に開催することができました。

20周年の今年は記念事業として特別講演会も開催し、吉本新喜劇の座長などを務められた小藪千豊さんをお招きしました。TVで観る小藪さんの印象通り、飾らない人柄で、ご自身の経験や愛読書から得た人生のヒントなども紹介していただきながら『どうやって人と繋がついていくか』をテーマにお話いただきました。相手軸で物事を考える大切さや、学ぶことや知る事、新しいことだけでなく先人の経験を大切にすることなど、1時間があつという間に感じる講演会でした。

2024年11月16日(土)新潟東映ホテルにて新潟医療福祉大学同窓会設立20周年記念パーティーを開催しました。当日は、第12回連携研修会も開催され、100名以上の方々に集まりいただき盛大に開催することができました。

fivevisions

同窓会事業部



5つのビジョン

同窓会は、これまでの伝統を途切れさせず、
新しい事にも真剣に取り組み、これからの歴史を紡いでいきます。

vision 1 本部

人と人の
つながりを強みに、
この先へ

同窓会は設立20周年を迎えました。これまで支えてくださった全ての皆様に、心から感謝いたします。現在、卒業生は14,000人を突破しており、国内だけでなく世界でも活躍しています。離れていても母校と卒業生を「つながる」こと。その役割を同窓会は担っています。同窓会本部では、大学内の組織である「学科同窓会」との連携を強化し、同窓生同士だけではなく在学生支援にもつながっていく活動を目指しています。同窓会活動について「tete」やSNSを通じて情報発信し同窓会活動への周知・理解を促し、より多くの同窓会会員が参加をしやすい環境を整備していきます。新しい事にも積極的にチャレンジし皆さんが効率よく活動でき、誰もが楽しく、やりがいを持って携わっていただけるような同窓会を目指します。



田村 祐美
●理学療法学科3期生 2007年卒
●会長



●役員会の様子

vision 4 交流・在学生支援事業部

『会える』
場所からつながる

交流・在学生支援事業部では、同窓生が同窓会活動に参加する機会、在学生や地域の方々が同窓会活動を目にする機会を増やしていきたいと考えています。大学祭で毎年企画している同窓会イベントはもとより皆さんの同窓生に認知してもらい、スタッフや来場者としても大学祭にお越しいただくことで更に盛り上げていきたいです。また、今年度から始めた合格祈願・大願成就のお米を在学生に贈呈する事業も同窓生と在学生双方に広く発信していきたいと思っています。そして、同窓生と在学生、地域の方々と繋ぐ架け橋となるような活動を継続していきます。



●2023年度伍桃祭集合写真

金内 一品
●健康スポーツ学科12期生 2016年卒
●幹事役員

vision 5 生涯教育・同窓生支援事業部

『学び』の
場所からつながる

生涯教育・同窓生支援事業部では、現在生涯教育の場として毎年テーマを変えて連携研修会を企画、また在学生の連携総合セミナーアドバイザーとして同窓生を派遣する事業を主におこなっています。今後は学科同窓会サポーターの先生方と連携しながら、同窓生が求めている声を収集し、ニーズに沿った生涯教育の場を提供することや同窓生と在学生をつなぐ役割を担い、将来の同窓会の発展に寄与できるように取り組んでいきたいと思っています。



●2024年度連携研修会の様子

星 緩季
●健康栄養学科12期生 2016年卒
●首都圏副支部長

vision 2 広報・啓発事業部

『想い』を
届けてつながる

広報・啓発事業部は広報誌tete・SNS等での同窓生への発信に加え、長年の課題である役員の定着や実働できる人材確保に向けて20周年の節目に4年計画での学内・在学生・教員向け広報の強化をおこなっていきます。動画コンテンツの活用や在学生と一緒に取り組む企画を準備し、学内を中心に広報・啓発活動を強化することで、同窓会活動への理解・関心を深めてもらい役員定着や人員確保に繋げていきます。



高橋 葵
●作業療法学科7期生 2011年卒
●東北支部長



●同窓会誌
tete1～3号



信頼を築き、 未来を描く支援の現場

す。ご家族の気持ちと利用者様の健康状態とのギャップに向き合う中で、支援者としての役割を果たすことは大変なプレッシャーを伴います。

一方で、利用者様やご家族と築いた長い信頼関係の中で、成長や節目の瞬間を共に喜べるのが、この仕事の最大のやりがいです。例えば、大学時代に関わった利用者様が、高校の卒業式を終えた後、記念写真を撮るために施設へ足を運んでくれたことや、

小学校入学時にスーツ姿を見せに来てくれた場面は、支援者としての喜びを実感する瞬間です。利用者様の成長やご家族の喜びを分かち合えることは、この仕事ならではの大きな魅力

力といえます。

このように、支援の現場では利用者様の生活と健康を支えるために大きな責任を負う一方で、長い時間をかけて築かれる絆が支援者にとっての励みとなります。困難な状況に直面しても、利用者様やご家族の笑顔や成長が、支援者の心に大きな活力をもたらしてくれます。

仕事の工夫

「思い立ったらやってみる」をモットーにしています。福祉の現場では、状況やニーズが個々に異なるので、最初から完璧を求めるのではなく、試行錯誤を繰り返すことが重要です。結果が

思い通りにならないときも、柔軟に軌道修正を図り、次の一歩につなげていくことを大切にしています。

さらに、職員同士のコミュニケーションを活発にし、互いに意見やアイデアを出し合える環境づくりに注力しています。支援の質を高めるためには、現場スタッフ全員が同じ方向を向いて協力し合うことが欠かせません。そのため、仕組み作りやチームビルディングにも力を入れています。

活力のある生活を送るために 大切にしていることを 教えてください。

毎日の生活においては、ポジティブな考え方を維持することを心がけています。新しいことに挑戦し、たとえ失敗してもそこから学びを得て、次につなげる姿勢を大切にしています。また、休日は家族との時間を大切にし、子どもたちと公園に出かけたり、イベントに参加したりしています。

趣味は読書や音楽鑑賞で、新しい本や好きなアーティストの音楽に触れる時間も楽しみの一つ。心身をリフレッシュさせ仕事への活力につながっています。職業人として、今後の夢や目標、キャリアデザインについて教えてください。

今は管理者として、利用者様からも職員からも愛される事業所を目指して取り組んでいます。さらに、地域全体の福祉向上に貢献できるような仕組み

社会福祉学科 2010年卒

齋藤 梨沙 さん

新潟市東区出身。現在は重症心身障がい者施設「Beトウインクル」でサービス管理責任者と施設長を兼務。利用者様やご家族の生活を支える支援計画の策定や施設運営に従事している。大学時代から特別支援学校でのボランティア活動を通じて福祉への情熱を育み、卒業後は就労支援施設を経て現在の職場へ。利用者様やご家族との信頼関係を大切に、安心できる環境づくりに尽力している。休日は子どもたちとの時間を楽しみながらリフレッシュ。ポジティブな考え方で福祉分野の発展に取り組んでいる。

現在のお仕事と現在に至るまでの道のりを教えてください。

現在、新潟市東区にある重症心身障がい者施設「Beトウインクル」でサービス管理責任者と施設長を兼務しています。また、法人全体の障害部を統括する部長も務め、組織運営やスタッフ育成に携わっています。主に利用者様一人ひとりの生活を支えるための個別支援計画を立案し、ご家族との面談や日々の支援における課題解決を担っています。施設全体の運営を通じて、利用者様が安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいます。

この仕事を始めたきっかけは、大学在学中に経験した特別支援学校でのボランティア活動でした。肢体不自由児の子どもたちと関わった経験が、現在のキャリアの礎となっています。卒

業後は就労継続支援B型事業所で支援員として約4年間勤務しました。ここで支援の基礎を学べたことは、今でも貴重な経験だったと感じています。その後、在学中から目指していた重症心身障がい者施設で働く道を選びました。

お仕事のやりがいや、 それに関わるエピソードを 教えてください。

重症心身障がい者支援の現場では、利用者様ご本人とご家族の気持ちの間に立つことで、葛藤が生じることが少なくありません。特に、医療的ケアに関する意見の相違が生じた際には、難しい状況に直面します。具体例として、経管栄養の方法を巡るケースがあります。鼻からチューブを通すのは見た目が気になるため避けたいというご家族の希望や、胃瘻・お腹に穴を開けて栄養を摂取する方法を受け入れられないという意向に対し、口からのチューブ栄養が体調悪化のリスクを高める場合があります。このような場合、ご家族の気持ちに配慮しつつも、利用者様の健康維持を第一に考え、適切な選択肢を提案しなければなりません。これが信頼関係に影響を及ぼすこともあり、辛さを感じる場面です。

また、誤嚥性肺炎を繰り返す利用者様について、ご家族が「口から食べさせたい」という希望を持ちながらも、医療的には限界が近づいている場合、現実を伝えることの難しさがありま

て、相互に刺激を受けています。最近では子育て世代としての話題で盛り上がることも多く、互いの成長を共有しています。また、母校から実習生の受け入れもおこない、福祉分野を志す若者たちを支援することにやりがいを感じています。

同窓生の皆さん、それぞれの場所で頑張っていることと思います。学生時代に描いていた夢や目標を忘れず、歩み続けてください。どんなに忙しくても、皆さんが頑張っている姿が励みになります。またいつか、どこかで再会してお互いの歩みを分かち合える日を楽しみにしています。



3/利用者様に親身に寄り添う齋藤さん。

Information

Beトウインクル

新潟市東区はなみずき位置する社会福祉法人亀田郷声沼会が運営する施設。重度の障がいを持つ方々の社会参加を促進し、可能性の実現を目指して、生活介護、児童発達支援、放課後等デイサービスを提供している。主な活動には、送迎、入浴・食事、レクリエーション、体操、音楽、おやつ作りなどがあり、利用者様が楽しく豊かな時間を過ごせるよう支援している。

住所／〒950-0893 新潟県新潟市東区はなみずき2丁目3-7
ホームページ／ <https://ashinuma.com/facility/hogaraka.html>





1／患者様に寄り添い丁寧に検査をする曾我さん。2／適切な診断のため、様々な検査が用いられる。3／検査件数などのデータを算出することも業務の一つ。

聖籠町以外の眼科を受診する子が多かったのですが、事業開始から2年ほどが経ち、健診で異常が見つかった子供たちの多くは当院を受診する流れができました。健診事業に参加したことで、弱視の早期発見・早期治療につながることで、子供たちの視力が成長する姿をみると自分のことのように嬉しく感じます。子供の検査は大人相手とは異なり、短時間で手早く検査をおこなう必要がありますが、その分やりがいも大きいです。また、病院という場所は、子供たちには嫌な場所かもしれませんが、眼科受診を楽しみにしている子が多いことも、やりがいに繋がっています。

活力のある生活を送るために大切にしていることを教えてください。

私が大切に行っていることは、「心の余裕を持つ」ことです。具体的には、物事の本質を見抜き、優先順位をつけて効率よく行動するということです。私が当院に入職したときは、視能訓練士は私一人しかいませんでした。自分自身で様々な業務を遂行しなければならなかったため、効率よく行動しなければ外來の待ち時間が超過してしまう状況でした。そのため、事前準備や優先順位をつけることで、効率よく行動することができました。その結

果、時間・心理的余裕が生まれ、例え困難が伴う状況でも冷静に対処することができました。現在では、忙しくても患者様に寄り添った丁寧な検査につながるれています。

職業人として、今後の夢や目標、キャリアデザインについて教えてください。

今後はこれまで以上に、この新潟聖籠病院の眼科を地域密着型にしていきたいと考えています。聖籠町に眼科は当院しかありません。現在は、3歳児健診に参加させていただいています。が、今後はさらに、就学時健診や目に関する講演会など、地域の方々に目の健康について、より身近に考えていただく機会を作っていきたいです。これらの活動を通じて、当院の眼科を気軽に来院していただけるよう、努めていきたいです。

先程お話したとおり、入職当初より視能訓練士は私だけの1名体制でしたが、患者様の増加などで要員不足となり、昨年9月から2名体制となりました。視能訓練士が2名体制となったことで、患者様一人ひとりに時間を掛けることができますし、今後、新たに組み入れることを増やせると思います。

また、聖籠町は大手不動産会社が発表した「新潟県 街の住みこち

「眼科」をより身近な存在に。 地域密着型の視能訓練士。



視機能科学科 2017年卒

曾我 拓馬 さん

新潟市西区出身。中学時代にスポーツ障害のケアで通っていた鍼灸院の先生が全盲であり、そこで「眼が見えることは当たり前ではない」ということを痛感。眼が不自由な方々の力になりたいと感じ、新潟医療福祉大学視機能科学科へ入学。学科1期生として先輩がいない中で学生生活を過ごし、国家試験対策の勉強が本当に大変だったとのこと。

現在のお仕事と現在に至るまでの道のりを教えてください。

現在、新潟県聖籠町にある新潟聖籠病院で視能訓練士として働いています。当院に入職してから3年目を迎えました。現在、眼科に携わる業務全般をおこないつながりながら、他の病院業務や、独自の取り組みとして他院の視能訓練士の方に助言をいただいて、検査件数をはじめ様々な外來データの算出をおこなっています。

そもそもなぜ、視能訓練士を志したかと言うと、私が中学生の頃から通っている鍼治療の先生が全盲だったことがきっかけです。そこで見えることは当たり前ではないことを初めて実感し、目の不自由な方の力になりたいと思い、新潟医療福祉大学の視機能

科学科に入学しました。

大学卒業後は、新潟県魚沼市にある高度医療・緊急医療を担う総合病院で5年間働いていました。そこでは、様々な疾患を抱えた患者様や緊急性の高い患者様が来院される中で、学生時代に学んだことは違う、まさに臨床現場での様々な知識と経験を積み重ねることができました。そこで得た経験を地域医療に特化した病院で活かしたいと思い当院に入職しました。

お仕事のやりがいや、それに関わるエピソードを教えてください。

現在は3歳児健診業務にも力を注いでいます。3歳児健診の視力検査は、視力が正常に発達しているか発達を妨げる異常がないかを検出するために大切な検査です。ちょうど私が入職した頃に、異常の検出精度を上げるため全国の自治体で屈折検査の導入が進んでいました。しかし、聖籠町はまだ機械の導入は検討段階でした。市町村と病院が連携・サポートすることが重要であると、当院の眼科医師から助言をいただき、聖籠町との協議のすえ、屈折検査の導入と事業に参加させていただくことになりました。

以前は、視力不良で当院の眼科を受診する子供の割合はとても少なく、



4／子供たちと健診から関わり受診しやすい病院になるように願う。子供たちの緊張をほぐすために、白衣にはかわいいボールペン、検査室にはシールやおもちゃなどを準備しているという曾我さん。

Information

医療法人社団葵会 新潟聖籠病院

「地域の皆様の健康と医療に貢献できる病院を目指す」ことを理念とし、開院7年目を迎えた。地域包括ケア病院として身体機能、日常生活能力の回復や向上を目指し、集中的かつ効率的にリハビリテーション診療を展開している。眼科の診療においては2022年から外來手術も選択できる体制を確保しており、患者様一人ひとりに適切な診療で寄り添った医療を提供している。



住所／〒957-0124 新潟県北蒲原郡聖籠町蓮野5968-2
ホームページ／ <https://www.aokai.jp/niigataseirou/>



1／健康診断は医療の最前線でありいつも臨戦体制で仕事に取り組んでいると語る相馬さん。2／相馬さんが自ら運転する検診車（11トンの大型車）。3／マンモグラフィ装置を操作する相馬さん。4／胃部X線検査をおこなう際に使用する精密機器。

検診車と共に地域を駆け、 人々の健康を守る最前線へ



ラフィの撮影はとても精密で、受診者様の体にも負担がかかる検査のため、体調や不安にも気を配り、少しでも快適に実施できるよう心がけています。技術者として、技術も大切ですが、受診者様の気持ちに寄り添うことが何よりも大事だと思っています。

また、マンモグラフィ検診車の運転は、ただ移動するだけでなく、私の仕事の中でも大切な仕事の一つです。出張では5時間以上運転して移動することや、普段も段差のある道や高架下、雪道などを運転することがあるので、精密機械を搭載した大型車の運転には綿密な段取りと精神力が必要です。実は、子供の頃からトラックに憧れていて、家には『爆走デコトラ伝説』というゲームがあつてよく遊んでいました（笑）。「トラックつかつこいいな」とは思っていました。今こうやって運転が仕事の一部になるなんて、当時は想像もしていませんでした。

活力のある生活を送るために 大切にしていることを 教えてください。

仕事の合間には「趣味や新しい体験を積極的に楽しむこと」を大切にしています。旅行や美味しいものを食べることは、日々の疲れを癒し、新たな活力を得るための大切な時間です。仕事で訪れた地域でその土地ならではの名物料理を楽しんだり、出張先

診療放射線学科 2022年卒

相馬 明朱夏 さん

新潟市西区出身。診療放射線学科1期生で入学し、現在は地元の新潟県労働衛生医学協会新潟ウェルネスにて診療放射線技師として勤務。2023年にマンモグラフィ撮影認定技師の資格を取得。自らマンモグラフィ検診車を運転し、乳がん検診を実施。日々、精度の高い検査を通じて受診者様の健康を守る役割を担う。休日にはバイクに乗ってツーリングをしたり、アクリル画を描いたり和多趣味であり、何事にも楽しみながら全力で取り組んでいる。

現在のお仕事と現在に至るまでの道のりを教えてください。

現在は地元の新潟市西区にある新潟県労働衛生医学協会新潟ウェルネスにて診療放射線技師として勤めています。主な仕事内容はマンモグラフィ撮影、上部消化管撮影などをおこない地域の健康を支える一員として働いています。在学中に大型免許を取得し、現在は検診車（11トンの大型車）の運転も日常的におこなっています。

診療放射線技師という職業を知ったのは、過去に耳の手術をしたことがきっかけでした。検査のためにレントゲンやCTを撮る際、自分の身体よりも大きな機械を扱う姿に憧れを感じました。もともと物理が得意だったこともあり、そこから診療放射線

では仕事を終えてから少し観光をしたりすることが、忙しい毎日に潤いを与えてくれます。

また、バイクが趣味で、休日にはツーリングに出かけることが多いです。風を感じながら自然の中を走ることで、気持ちがリフレッシュされ、翌週からの仕事への意欲が高まります。こうした趣味を通じて心身のリズムを整えることが、結果として仕事にも良い影響を与えていると感じています。

職業人として、今後の夢や目標、キャリアデザインについて教えてください。

今後の目標として、ピンクリボンアドバイザーの資格取得を目指しています。この資格を取得することで、乳がん検診についての専門知識をさらに深め、これからマンモグラフィの検診を受けるかどうか迷っている方を受診へと導けるようになりたいと思っています。また、医療の現場は日々進化していて、新しい技術や機器がどんどん登場しています。それにしっかり対応できるよう、マンモグラフィの撮影技術を向上させるため、勉強会や研修への参加にも力を入れていきたいと思っています。

一方で、医療の分野に限らず、自分の可能性を広げたいという気持ちもあります。料理が好きなので、将来的にはお弁当屋さんを開くという夢も抱いています（笑）。仕事と趣味の両立

技師という職業にだんだんと惹かれていきました。

大学入学当初は、私たちが診療放射線学科1期生ということもあり本当に不安だらけでした。先輩がいない中で勉強法もわからず、先生方と二人三脚で国家資格取得に向けて必死に勉強してなんとか乗り越えてきたのを覚えています。

お仕事のやりがいや、それに関わるエピソードを教えてください。

診療放射線技師としての仕事のやりがいは「病気の早期発見を通じて人々の健康を守る」という責任感と使命感にあります。特に健康診断は病院での診療とは異なり、基本的には健康な方を対象に実施されます。健康診断の場合は医療の最前線であり、私たちがここで病気を上手く撮影できれば、病気を発見することはできないので、いつも臨戦態勢で仕事をしています。

住民検診などでは多くのお年寄りの方の撮影もおこないます。体型や健康状態は人それぞれ異なるため、撮影時には一人ひとりに合わせた対応が求められます。体型の影響で撮影が難しい場合でも、いかに読影しやすい画像を提供するかが技術者としての技量に関わります。うまくできたときにとってもやりがいを感じます。マンモグ

を楽しみながら、自分らしいキャリアを築いていきたいと思っています。

同窓生へ向けてメッセージをください。

卒業してからも、大学の先生や同期とのつながりはずっと大切になっています。同期とは今でも頻繁に連絡を取り合つて、情報交換をしながらお互いに励まし合い、成長し続けることが大切だと思います。学生時代は不安もたくさんありましたが今では同期とのつながりが本当に自分の支えになっています。これからもこの絆を大切に、一緒に頑張っていきたいと思っています！

Information

新潟県労働衛生医学協会 新潟ウェルネス

高品質な健康診断や人間ドックを提供し、地域の皆様の健康づくりを支援している。隣接する新潟健診スクエアは、最新のCT・MRI機器を備え、男女別エリアや豊富な検査メニューを提供する専門施設。新潟ウェルネスは、がんや生活習慣病の早期発見・予防に注力している。

住所／〒950-1187 新潟県新潟市西区北場1185-3
ホームページ／ <https://www.niwell.or.jp>





伍桃祭 × 同窓会イベント あそびのひろば

今年度の大学祭も『あそびの広場』を開催いたしました！
地域スポーツクラブで働いている同窓生や飲食店を運営されている同窓生からご協力いただき、子どもたちが楽しみながら体を動かせるスポーツアスレチック空間や飲食ブースを出展いたしました。また、昨年も大人気だった巨大迷路を「モンスター迷路」にパワーアップし、来場された方々は同窓生が仮装したモンスターに驚きながらも複雑な迷路を楽しそうに攻略していました。その他にも、プロカメラマンによる「キップ・ファミリー写真撮影ブース」や同窓会マスコットキャラクターでもある「つなでちゃんの塗り絵コーナー」も大盛況でした！当日は晴天にも恵まれ300人近くの方からご来場いただき、多世代の方に楽しんでいただけたイベントとなりました！！
コロナ禍以降3回目の大学祭でのイベントとなりましたが、回を重ねる毎に同窓生や地域の方が集まって同窓会活動に触れていた、ごく貴重な機会になっていると実感しております。同窓生や同窓会サポーターの先生方ならびに学生ボランティアの皆様からご支援、ご協力いただき運営できたことを心より感謝申し上げます。今後も楽しいイベントを企画してまいりますので、新潟医療福祉大学同窓会を引き続きよろしくお願い申し上げます。



金内 一品
新潟医療福祉大学同窓会 幹事役員
(健康スポーツ学科 2016年卒)



連携総合ゼミ同窓生派遣事業

2024年8月27日(火)に本学4年生と新潟県内・海外を中心とした5大学の4年生が参加した連携総合ゼミへ講師派遣をおこないました。

9名の同窓生から7テーマの事例について在学学生に直接アドバイスをさせていただきました。

■参加された講師

長島 裕子 さん(理学療法学科 2007年卒) 金内 一品 さん(健康スポーツ学科 2016年卒)
渡邊 靖子 さん(理学療法学科 2015年卒) 片野 佑美 さん(健康栄養学科 2017年卒)
本田 早紀 さん(理学療法学科 2015年卒) 能登 友紀恵 さん(看護学科 2016年卒)
西山 達也 さん(作業療法学科 2010年卒) 永正 崇文 さん(社会福祉学科 2007年卒)
小田 雄基 さん(臨床技術学科 2017年卒)



連携総合ゼミ同窓生派遣事業とは

具体的な症例をもとに、学科混成グループで支援策を検討していく連携総合ゼミにおいて、同窓生が専門職としての視点からアドバイスを伝え、経験をもとにサポートする役割を担う在学学生支援事業です。

Voices /

片野 佑美さん(健康栄養学科 2017年卒)

同窓生として連携総合ゼミに参加してきました！私自身も学生時代、連携総合ゼミに参加しましたが、卒業後に同窓生として参加するのは初めてでした！現在働いている現場の経験を活かし、母校の役に立てることは嬉しかったですし、今の学生にどう伝えたら分かりやすいかなど、連携総合ゼミを通して自分自身の振り返りや学びにもなると感じます。

また学生との交流で改めて初心にかえる機会となり、今後の専門職としてのモチベーションにもなりました！



第12回 連携研修会 経営のすすめ

～起業・他業種交流・情報管理など～

2024年11月16日(土)新潟東映ホテルにて、第12回 連携研修会を開催いたしました。

自身で起業された3名の同窓生より、起業に関する話や情報の活用などをテーマにご講演いただき、後半は医療情報管理学科教員である高野先生コーディネートのもと情報管理やリスクマネジメントについてパネルディスカッションをおこないました。



【第一部 主幹学科同窓生による講演】

経営者としての道 ～他業種交流やリスクマネジメントを交えて～

講師：古荘 健一 さん(株式会社IZZAC(アイザック) 代表取締役会長/医療情報管理学科 2019年卒)

【第二部 起業された同窓生の集い(発表およびパネルディスカッション)】

パネラー



大桃 結花 さん
B momo(ビー モモ) 代表
理学療法学科 2007年卒



中村 真治 さん
合同会社真(まこと) 代表社員
社会福祉士事務所 代表社員
社会福祉学科 2005年卒



古荘 健一 さん
株式会社IZZAC(アイザック)
代表取締役会長
医療情報管理学科 2019年卒

コーディネーター：高野 晃輔 先生(新潟医療福祉大学 医療情報管理学科 助教/医療情報管理学科 2017年卒)

連携研修会とは

2013年より開催され、12回目の開催となります。新潟医療福祉大学での連携教育を踏襲し、専門職としての資質向上(スキルアップ)の実現を目的とした同窓会の中心を担う事業です。卒後教育・生涯教育を充実させるとともに、専門職として活躍している同窓生どうしの新たな連携方法を模索し、相互の親睦を深める機会を提供しています。

Voices /

コーディネーター：高野 晃輔 先生より

今回は、卒業後に起業し、経営者として活動されている同窓生の皆さんにお集まりいただきました。

第一部では、SNS事業でご活躍されている古荘 健一さんにご講演をいただき、第二部では「情報」をテーマとしたパネルディスカッションをおこないました。

情報社会において必要とされる管理能力、リスクマネジメント、他者との連携について経営者の視点を垣間見る、大変有意義な研修会となりました。

ご参加いただいた皆様に感謝申し上げます。



総評 首都圏副支部長：星 緩季(健康栄養学科 2016年卒)

今回は「経営のすすめ」をテーマに開催しました。独立し、奮闘されている同窓生のお姿は、我々の刺激になり、日々の仕事へのヒントを得られるのではと考え、企画しました。

3名の同窓生の活動報告を受け、他職種、異業種含め、他者とのひとつひとつの結びつきを大切にすることや、助けが必要な時には積極的に専門家へ尋ねに行くことなど、連携をもとに仕事を好転させていくコツを多く学ぶことができました。

また昨今はデータ管理方法の多様化やSNSでの繋がりなど、情報管理のリテラシーが重要となっています。個人情報を得る範囲やそれを活用する際の同意、管理方法など実際の現場でおこなわれている様子を知ることができ、学びの多い時間となりました。

高野先生、活動報告をいただいた同窓生、関係者の皆様にこの場を借りて感謝申し上げます。



第1回作業療法学科 同窓生×学部生交流セミナー開催!!

2024年11月22日(金)に、作業療法学科では初となる同窓生と学部生の交流セミナーを開催しました。第一部では、11期生の久保田恭平先生(2015年卒)より「作業療法士になって10年 これまでのOT道を振り返る」と題して、特別講演をいただきました。様々な領域を経験されて学んだことややりがい、大学生活を振り返ってなど、ユーモアを交えながら幅広くお話いただきました。第二部では、様々な分野で働く同窓生10名が小グループに分かれ、大学生活や就職活動、作業療法士のやりがいなどをテーマに学部生と交流しました。同窓生からは「先生や同期と会えて嬉しかった。」「初心を思い出した。」と聞かれ、学部生、同窓生ともに有意義な時間となりました。

今後も同窓生と学部生の交流する活動が活発化し、作業療法学科全体が盛り上がっていったらと思います。



第1回NUHW臨床技術学科 同窓会集会

2024年9月7日(土)にホテルイタリア軒にて臨床技術学科初となる同窓会を開催しました。臨床技術学科は2011年に設立し、2024年で14年目を迎えました。同窓会集会への参加人数は1期生から10期生までの同窓生と教員を合わせて総勢79名でした。各県で臨床検査技師・臨床工学技士のダブルライセンスを活かして活躍されている同窓生を講師としてお呼びし、実臨床での現状報告とダブルライセンスが活かした経験談をご講演いただきました。事例提示、質疑応答を通して、様々なディスカッションがなされました。また懇親会では、学友や教員との再会だけでなく、学年を超えたコミュニケーションがなされました。今後も継続して、同窓会活動をおこなっていきます!

新潟医療福祉大学水泳部 20周年記念式典開催

本学水泳部は2024年度で創部20年目を迎えました。そこで、2024年11月16日(土)に記念式典を開催し、卒業生67名(+お子さん9名)、在学生38名、スタッフ8名、合計122名の人数で集まりました(特に4期生までの出席率が高い!)

卒業してから数年以上経ったにも関わらず、一気に大学時代に戻ったかのような雰囲気となり、とても素晴らしい会になりました。式典では卒業生から、どのような思いでこの部を作り上げてきたか、日本代表を経験しての思い、シード校へのこだわりが伝えられ、学生達の心に響く言葉が多くありました。

たくさん感動と楽しい時間を共有してくださり、ありがとうございました!



在学生支援
合格祈願米
大願成就米
贈呈



国家試験・資格試験を受験する4年次生の皆さんへ、同窓会より合格祈願米・大願成就米を贈呈しました。2024年11月15日(金)に学内にて祈願祭をおこない、神主様よりご祈禱いただきました。お米は脳を活性化させるエネルギー源になるため、試験に挑む皆さんの力となり、夢や目標が叶うようにと願いが込められています。

「つなでちゃんランチ」を考案し、 販売金額の一部を支援しました!

2023年度第3回本部役員会にて、在学生支援事業の一環として健康支援、食支援、経済支援をおこなうことが決定し、これまで企画を進めてまいりました。

大学生に必要な栄養がたっぷり含まれているメニューを、健康栄養学科同窓生よりご考案いただき、2024年7月22日(月)～26日(金)の5日間、モモカフェにて「つなでちゃんランチ」を販売いたしました! 本来900円のところ、1/3の値段である300円で提供できるように同窓会で支援しました。1日50食の限定販売でしたが、毎日完売となり、在学生からは大変好評でした!

今後も、同窓生の皆様のお力を借りながら在学生支援をおこなってまいりますので、ご協力賜りますようお願い申し上げます。





サークル長 高橋 怜菜さん(3年)

「楽しく笑顔で活動すること」を
主な目標として活動しています。
現在RIZEに所属している学生

今はどのようなことを目標に、
活動を進めていますか。
また、その目標に向けて
工夫していることを
教えてください。

主な活動内容としては、大学の
イベントである4月の「桃迎会」や
10月の「伍桃祭」、さらには新潟市で
行われるイベント「にいがた総踊り」
にも出演しています。

長期休みは重点的に練習をおこ
ない、9時から15時頃まで活動する
こともあります。

ダンスサークルRIZEの
主な活動内容を
いくつか教えてください。

20周年パーティーで
パフォーマンスを
披露していただいた
ダンスサークルRIZEに
お聞きしました！

RIZEはいろんな学科・学年で
構成されており、とにかく賑やかな
サークルです。学内で会うと挨拶から
始まって、その後も勢いが止まらずに
話が盛り上がりします。
また、夏休みにはOG・OBも参
加する大規模なバーベキューを開催
するので、今年の夏は約50名の

RIZEの活気ある
エピソードを教えてください。

が70名以上いるのですが、その中で
もサークル長が各学年に1人ずつい
ます。意見がある方は、話しやすいで
あろう同じ学年のサークル長に伝えて
もらい、そこから各学年のサークル長
で意見交換するという流れにしてい
ます。どの学年でも輝いて活動でき
るように意見交換を大切にしています。



また、伍桃祭が終わったあとはイン
スタライブでRIZEだけの後夜
祭をしているので、和気あいあいとし
た雰囲気が伝わるかと思っています。

伍桃祭などのイベント前にはチーム
ごとの写真やメッセージを載せていま
す。ダンスが好きな人はもちろんです
が、在学中、RIZEに所属していた
卒業生の方がみんなに会いたいと思
った時にも見られるようにしてい
ます。

インスタグラムも活気があり、
楽しく活動している様子が
伝わりますが、RIZEの
インスタグラムについても
少し教えてください。

学生・卒業生が集まりました。
夏休みやイベント前には、より力を
入れて練習しなくてはいいないので、
施設を借りて、ほとんど毎日練習
している時期もありました。

私たちは2024年11月16日(土)
に行われた同窓会設立20周年記念
パーティーに呼んでいただき、ダンスを
披露する機会がありました。参加
された同窓生の方々には私たちの
パフォーマンスを楽しんでいただけた
かと思います。
10月の伍桃祭でパフォーマンスをおこ
ないますので、ぜひお越しいただけ
ばと思います。



アピールポイントとしては、ぜひ笑
顔とダンスに注目してほしいと思
います。楽しく活動することを目標と
しており、笑顔の絶えないサークルで
あることが魅力だと思っています。
見ている人も楽しめるようなダンス
をお届けしたいと思っていますので、
ぜひ注目してほしいです。

同窓生に対して、
「RIZEのこころに
ぜひ注目してほしい！」
というアピールポイントは
ありますが。



今回のteteから新企画として 学生広報とのコラボ企画がスタートしました！

今回はキックオフミーティングを開催し双方の経験や活動内容を共有し今後の活動への土台作りをおこないました。
広報活動を行う同志がタッグを組み活動することで、同窓会はより効果的な在学生支援のニーズ発掘ができるので
はと考えています。同窓生には、学生目線でフレッシュな情報発信をすることで大学の近況や、今の学生の価値観・
ニーズを伝えられる場となるのではないかと思います！在学生には同窓会への関心を持ってもらい、専門職のキャリア
アップだけでなくその先のセカンドキャリアや活気ある人生の道しるべになる情報もゲットしてほしいと思っています。
同窓会の活動テーマは『つなぐ』です。いろいろな経験を積んだ人がいることや、様々な考え方があることを尊重し、
知ることによって縦横にとらわれない広いつながりができていくことの一助となる企画にしていきたいと思っています。

学生広報って？

SNSやオープンキャンパスの 運営を中心として活動しています。

活動例として、オープンキャンパスのプログラムにて学生
目線で本学の魅力を発信する「在学生キャンパスツアー」
の企画・運営をおこなっております。来場者からは、「大学
生活の想像が膨らんだ」「見たことのない大学の
裏側を知ることができた」との声をいただき、やりがい
を感じる良い経験になりました。



学生広報
Instagram



活動&スタッフ紹介

木村 洸聖さん 診療放射線学科3年

私は学生広報スタッフを経験して自分でも成長したと感じる場所が多々
あります。中でもコミュニケーションスキルが一番成長したと感じます。
大学に入学するまでの私は、自ら人との関わりを避けていたのでコミュニ
ケーションスキルはゼロといっていいほどの状態でした。しかし、学生広報
スタッフになってからは人と話す機会も増え、自ら話しかけるという場面も多くなりました。それ以来、
初対面の人とも円滑なコミュニケーションを取ることができるようになり、自分の成長を感じます。
学生広報スタッフでの経験はこれからの人生で大きくプラスになることだと思っています。



近江 寿帆さん 診療放射線学科2年

学生広報スタッフとしてオープンキャンパスに携わりました。
私は学生広報として活動する前は声が小さく、どのように話
せば伝わるのか、上手に来場者の方へ新潟医療福祉大
学の魅力を伝えることができるか不安でいっぱいでした。し
かし、ツアーや来場者の案内を通して、「わかりやすかった」「放射線のことを気にな
っていたけど近江さんの話を聞いてより通ってみたいになった」など自分の発信で人
のことをプラスに変えられる活動ができてすごくやりがいを感じました。



New!

わたしは
ひよっこ!

社会人1年目の奮闘と成長

作業療法士として、
患者様の声に耳を傾け、
日々研鑽！

してきた環境によって、問題点も当然異なるため、改善するべき点を焦点化して作業療法を提供することに難しさを感じていましたが、担当スタッフ間で何度も話し合いながら患者様のために支援できたことは、良い経験になりました。

作業療法士という職業は、患者様の必要としている“その人らしい作業”ができるように支援していくことが大切だと思っています。これからも、患者様の声に耳を傾ける丁寧な姿勢を常に持ち、研鑽に励んでいきたいと思っています。



大久保 沙野さん

おおくぼ さや
作業療法学科 2024年卒
●勤務先／社会医療法人 嵐陽会 三之町病院

からだ
の
だから

生田 佳絵さん
いくた よしえ
健康栄養学科 2006年卒
●勤務先／skateboard&
ECOshop
ハカルAZUMINO

KARADA NO DAKARA

Vol. 4

身体本来のチカラを取り戻す
「ひき算」腸活のススめ

大学卒業後は埼玉県産婦人科で約15年勤務し、その後長野県安曇野市に移住しました。現在はオーガニック食材の量り売りとスケートボードのお店を営んでいます。すでに臨床から離れた私にお伝え出来ること今の暮らしから学んだこと。

日本は昔から「肚（はら）」がつく慣用句がよく使われてきました。はらを決める、はらを据える、はらがたつ、断腸のおもいなど、肚や腸に関わる部分が意志決定に重要な役割を担っていたことがわかります。実際、腸と脳は双方向で連絡を取り合い密接にかかわっていることが知られています。

20年前、大学の卒論研究でオースに行き機会がありました。そこでは日が昇るとともに起き、日が沈むとともに仕事を終えます。道は凸凹、野菜も肉も自給、雨水で身体を洗い、薪を拾い火をおこし調理。一見不便に感じる経験が、本当の

「豊かさ」を考えるきっかけになりました。近年では、大家族で多種多様な動植物や菌と共生していた暮らしから、時短や利便性を求める暮らしへ急速に移行してきました。多くの選択肢をもたらず一方で、より多忙でストレスを感じる日々にもなったように思います。

そんな今だからこそ、腸内環境のために何かを「たし算」するより、やめる「ひき算」が重要だと考えます。よりシンプルにすることで身体本来のチカラを取り戻すきっかけになるかもしれません。

空を見上げ、深呼吸。すでにある豊かさ感謝。自分を一番に愛する時間。

腸活とは部分的なアプローチではなく、『全て循環の中に存在すること』を再認識し、大地に触れ、古来から大切にしてきた肚の感覚を取り戻していくことではないでしょうか。

教員おすすめの本紹介

勉強が面白くなる瞬間

読んだらすぐ勉強したくなる究極の勉強法



紹介してくださった先生は……

橋本 照男 先生



新潟医療福祉大学 心理健康学科 准教授
2009年 慶應義塾大学大学院 博士課程修了 博士(心理学)

大学院まで行つて研究者をやつていても、勉強は「嫌い」というわけではないけれど……というのが正直なところです。どうすれば勉強しようと思えるか、やる気になるか、動機づけをする、意欲を高めるのは簡単ではありません。多くの人が勉強へのモチベーションを高めることができた、という本書には一読の価値があると思います。

勉強はとても価値があるもの、と読者に思わせるために、著者の体験を含めて色々な話が紹介されます。その中で1つでも強く同意、共感できる話が見つかれば良いと思います。私が共感したのは、勉強の面白さは「忍耐力」で決まります。ある程度できるようになるまでは、ひたすら退屈なものです。”

専門職から〇〇へ

Job Change!

卒業後から現在のお仕事に至るまでの経歴を教えてください。

新卒から2年目までは「消化器内科・外科・乳腺外科」の混合病棟、3、4年目は「脳神経外科」の病棟にて、総合病院の病棟看護師として勤務していました。

その後約4年間美容クリニックにて勤務し、2023年からフリーランスのアートメイク専任の看護師として活動しています。

アートメイク転向のきっかけは、病棟勤務時代に同僚から、お母様が乳がん全摘術後のケアとして、「抗がん剤治療後の肩」と「乳輪乳頭」のアートメイクの施術を受け、「大好きな温泉をまた楽しめるようになった」という話を聞いたことから。

乳腺外科病棟での勤務時代、術後の外見の変化に戸惑う患者様を多く見てきたこともあり、治療後のボディイメージの変化に対するケア・QOL向上の選択肢として、「アートメイクを多くのの人にもっと知ってもらいたい」と転職を決めました。

転職してよかったことを教えてください。

アートメイクには、代表的な眉のほか、リップ、アイライン、頭皮、乳輪乳頭、白斑、傷あと、口唇口蓋裂など、多くの施術メニューがあります。



峯岸 穂乃佳さん

みねぎし ほのか
看護学科 2015年卒
●フリーランス看護師

きっかけは、抗がん剤治療後や乳がん術後などの医療としてのアートメイクでしたが、病気ではなくてもコンプレックスがある方、QOL向上のために来院されたお客様の笑顔や自信を取り戻すお手伝いができて、毎日とてもやりがいを感じています。

これから転職を考えている人に向けて、アドバイスや応援のメッセージをお願いします。

美容クリニックでの仕事も、静脈麻酔下での手術や、薬剤使用によるアレルギー対応など、急変時の処置が必要となることもあり、臨床での経験が大切だったと感じています。

昨今、医療機関以外で働くなど、仕事の幅や選択肢が増えてきていますが、どの働き方を選択しても、臨床での経験は活きていきますので、2、3年は臨床でのお仕事を頑張つてから、新たな仕事へ挑戦してほしいと思います。私自身、自分らしく楽しく働ける場所を見つけることができ、勇気を出して美容業界へ飛び込んでよかったと思っています。

